

TAC通信

毎月、TAC (担い手支援担当) の取組み状況などをご報告いたします。

蓮田地区 (中部エリア) 担当の金子です。

今回はJA南彩で今年から取組んでいる「アスパラガス採りっきり栽培」について紹介いたします。

従来の露地栽培でのアスパラガス栽培は低温による被害の心配がなくなる5月から6月ごろに苗を定植して1年目は株の育成のみを行います。定植後1年または2年後から徐々に収穫を始めて10年から20年程度栽培を続けます。

それに対して採りっきり栽培は、定植を3月上旬から4月中旬頃に行い、5月から11月頃まで株の育成を行ったのち年明けに黄化した茎を刈り取りします。その後、3月下旬から6月上旬に出てくる若茎をすべて収穫する1年で完結する作型になります。

また従来のアスパラガス栽培では同じ圃場で10年から20年と栽培し続けるために病気や障害が出やすくなる可能性があります。採りっきり栽培では株を毎年更新するため病害と障害のリスクが軽減されます。採りっきり栽培が出来るようになったのには要因が2つあり①専用ホーラーを用いて苗を直接圃場に深植えすることで低温遭遇の可能性が低下し早期定植が可能になったこと②採りっきり栽培に適した品種の選定ができたことです。

今年から始めた取組みではありますが、JA南彩の【新規作物】としてアスパラガス採りっきり栽培が確立できるよう頑張っています。

